



# 2018年12月期 決算説明資料

第1四半期

2018年5月7日（月）  
株式会社ワールドホールディングス  
東証1部（2429）

# 沿革 ～2018年は設立25周年～

25<sup>TH</sup>  
ANNIVERSARY  
これまでから、これからへ。

2018

2016 東証1部上場

2014 持ち株会社化

2010 不動産ビジネス参入

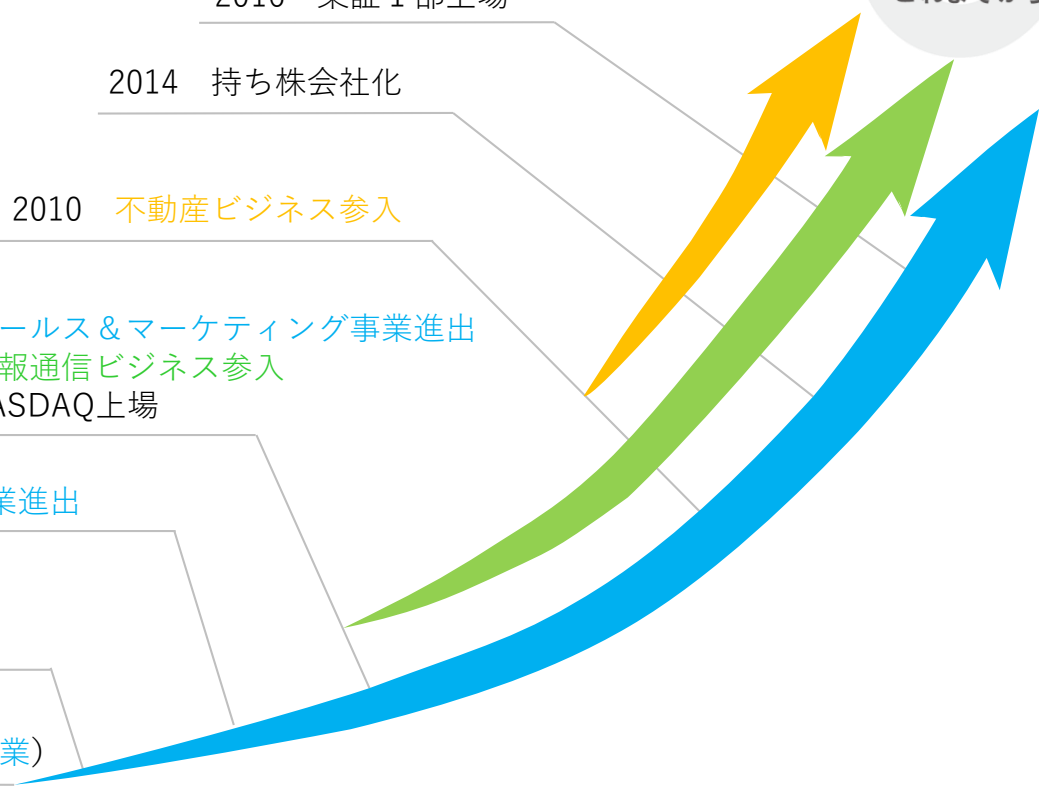
セールス&マーケティング事業進出  
情報通信ビジネス参入

2005 JASDAQ上場

2002 R&D事業進出

1997 テクノ事業進出

1993 当社設立 (ファクトリー事業)



## I. 2018年12月期 第1四半期決算概要

- ・ 決算サマリー … P4
- ・ セグメント別業績概況 … P6
- ・ 各セグメント詳細 … P7
- ・ 財政状態 B/S … P14

## II. 2018年12月期 通期業績見通し

- ・ 2018年12月期 通期業績見通し … P16
- ・ セグメント別 通期業績見通し … P17
- ・ 2018年12月期 四半期別業績見通し … P18
- ・ 株主還元 … P20

## III. 現状の課題およびトピックス

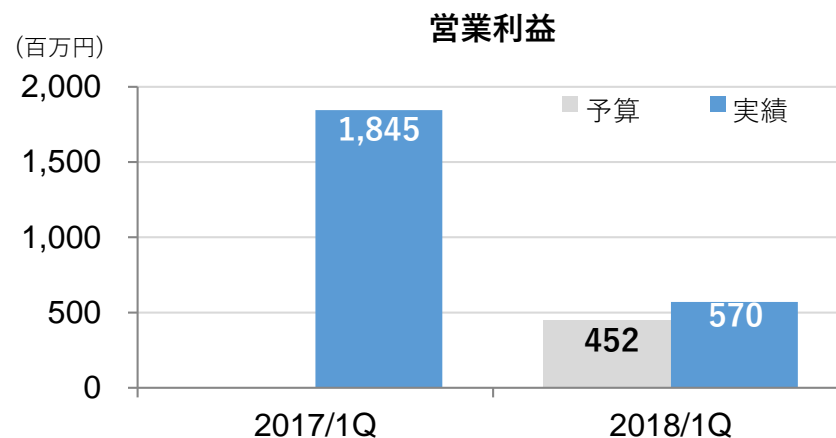
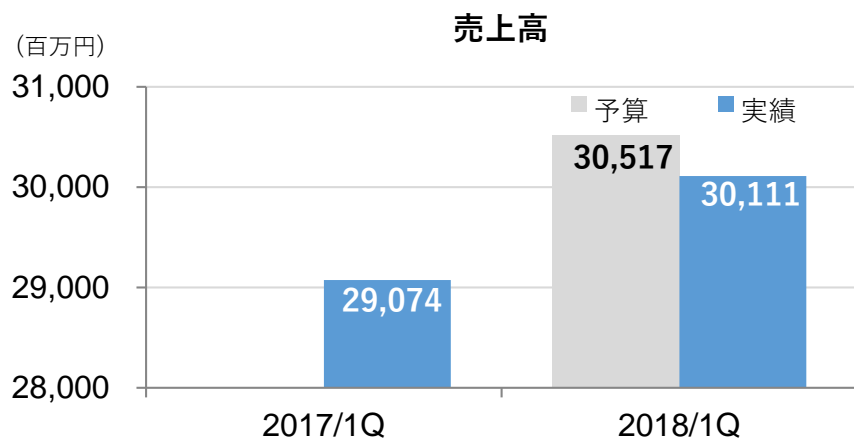
- ・ 2018年問題について … P22
- ・ トピックス … P23

# I. 2018年12月期 第1四半期決算概要



# 決算サマリー ①当初予算との比較

- 基幹の人材・教育ビジネスは、業界での新たなポジションを確立すべく立案した中期経営計画を着実に実行することで順調に推移し、グループ全体を大幅にけん引
- 不動産ビジネスは、市況を見極めデベロップメント関連において一部物件の引渡時期を調整した一方、リノベーション関連が好調に推移。バランスのとれた利益構造の構築が進む



(単位：百万円)

	2017/1Q 実績	2018/1Q 予算	2018/1Q 実績	当初予算比	
				過不足額	達成率
売上高	29,074	30,517	30,111	△406	98.7%
営業利益	1,845	452	570	+117	126.0%

# 決算サマリー ②前年同期実績との比較

(単位: 百万円)

	2017/1Q 実績	2018/1Q 実績	前年同期比		通期予算 ※	通期予算に 対する進捗率
			増減額	増減率		
売上高	29,074	<b>30,111</b>	<b>+1,036</b>	<b>+3.6%</b>	145,137	20.7%
営業利益	1,845	<b>570</b>	<b>△1,274</b>	<b>△69.1%</b>	7,288	7.8%
経常利益	1,810	<b>553</b>	<b>△1,257</b>	<b>△69.5%</b>	7,083	7.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,108	<b>148</b>	<b>△959</b>	<b>△86.6%</b>	4,635	3.2%

※2018年2月13日発表

# セグメント別業績概況

単位：百万円

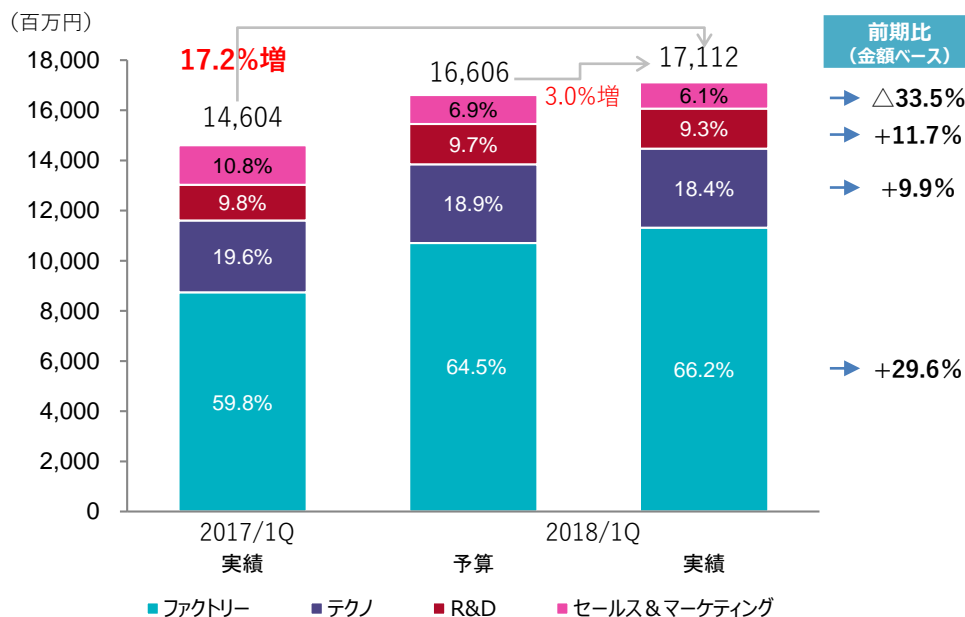
			2017/1Q 実績	(利益率)	2018/1Q 実績	(利益率)	前年同期比	
							増減額	増減率(%)
人材・教育ビジネス	ファクトリー事業	売上高	8,738		<b>11,320</b>		2,582	29.6
		セグメント利益	706	(8.1%)	<b>653</b>	(5.8%)	△53	△7.6
	テクノ事業	売上高	2,866		<b>3,151</b>		284	9.9
		セグメント利益	294	(10.3%)	<b>250</b>	(8.0%)	△43	△14.7
	R & D事業	売上高	1,426		<b>1,594</b>		167	11.7
	セグメント利益	95	(6.7%)	<b>100</b>	(6.3%)	4	4.6	
	セールス&マーケティング事業	売上高	1,572		<b>1,046</b>		△526	△33.5
		セグメント利益	72	(4.6%)	<b>△12</b>	(△1.2%)	△84	-
	計(参考)	売上高	14,604		<b>17,112</b>		2,507	17.2
		セグメント利益	1,168	(8.0%)	<b>991</b>	(5.8%)	△177	△15.2
不動産ビジネス	計(参考)	売上高	12,151		<b>9,194</b>		△2,956	△24.3
		セグメント利益	1,076	(8.9%)	<b>217</b>	(2.4%)	△858	△79.8
情報通信ビジネス	情報通信事業	売上高	2,138		<b>3,349</b>		1,210	56.6
		セグメント利益	67	(3.2%)	<b>37</b>	(1.1%)	△30	△44.8
その他	その他事業	売上高	180		<b>454</b>		274	152.5
		セグメント利益	13	(7.7%)	<b>△196</b>	(△43.3%)	△210	-
	合計	売上高	29,074		<b>30,111</b>		1,036	3.6
		消去又は全社 営業利益	△481		<b>△478</b>		2	-
			1,845	(6.3%)	<b>570</b>	(1.9%)	△1,274	△69.1
<参考数値>								
不動産ビジネス	デベロップメント・戸建	売上高	8,561		<b>4,828</b>		△3,733	△43.6
		セグメント利益	980	(11.4%)	<b>104</b>	(2.2%)	△876	△89.4
	リノベーション・ ユニットハウス	売上高	3,590		<b>4,367</b>		777	21.6
		セグメント利益	95	(2.6%)	<b>113</b>	(2.6%)	18	18.9

# セグメント全体

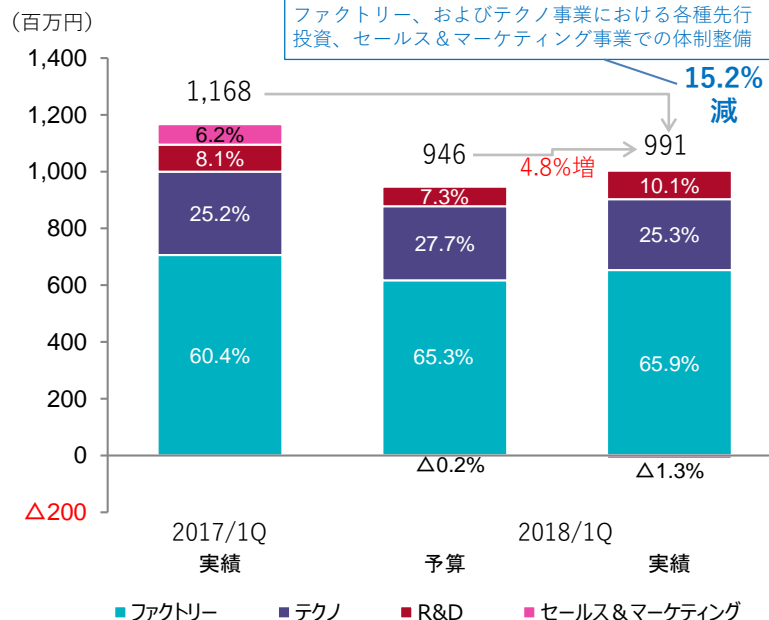
## < 分野別構成比と在籍数の変化 >

- 2018年問題の先を見据えた体制・組織の強化、中期経営計画に即した戦略の着実な実行を続けることで高成長を実現。グループ全体の業績を大きくけん引
- 営業（単価アップ）・管理（定着率向上）・採用（人員の純増）の各機能が向上し、多くの分野で好調持続
- 特に物流分野が引き続き成長、育成・配属機能の向上によりテクノ事業、R&D事業も好調

### ◆ 売上高 構成比



### ◆ セグメント利益 構成比



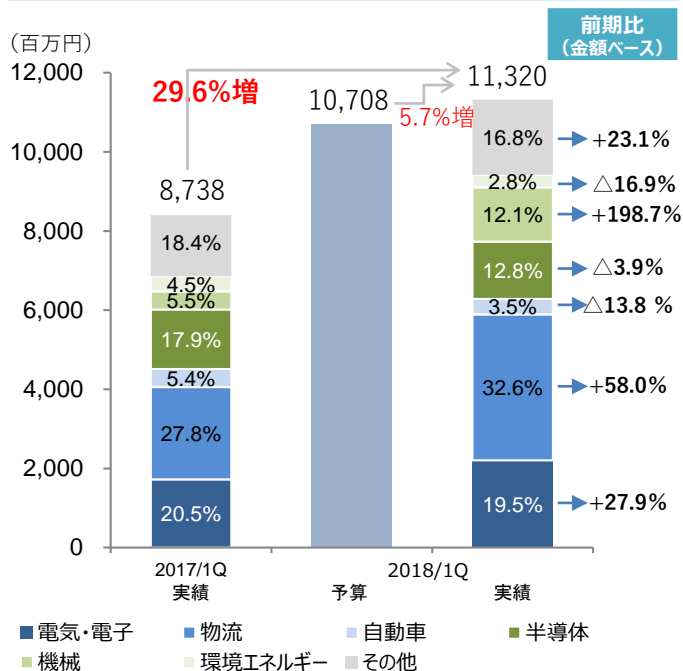


# ファクトリー事業

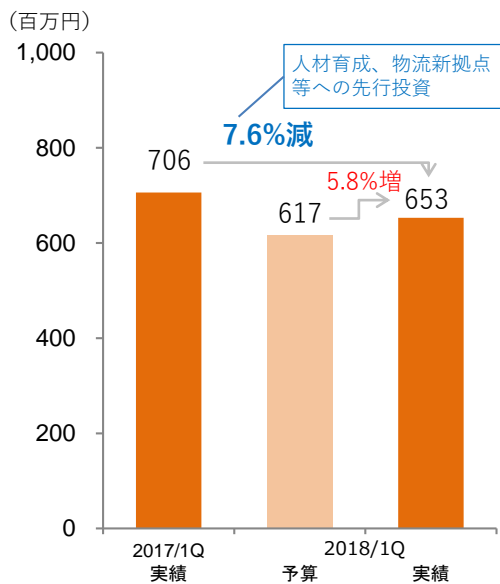
## < 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- これまでの大型請負案件の効率化や定着率改善への取り組みが奏功し、機械分野を中心に順調に拡大。物流分野における顧客内シェアの拡大も継続
- 大型案件立ち上げに備え流動化人材を先行採用。育成環境の整った事業所に配属し実践的な研修を実施。物流分野でも新拠点立ち上げに向けた人材育成や新たな管理体制を構築

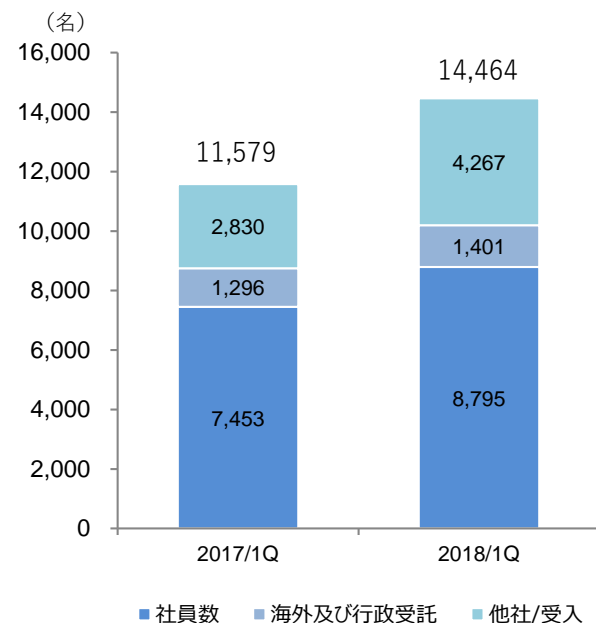
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※売上高の予算は分野別に開示していません

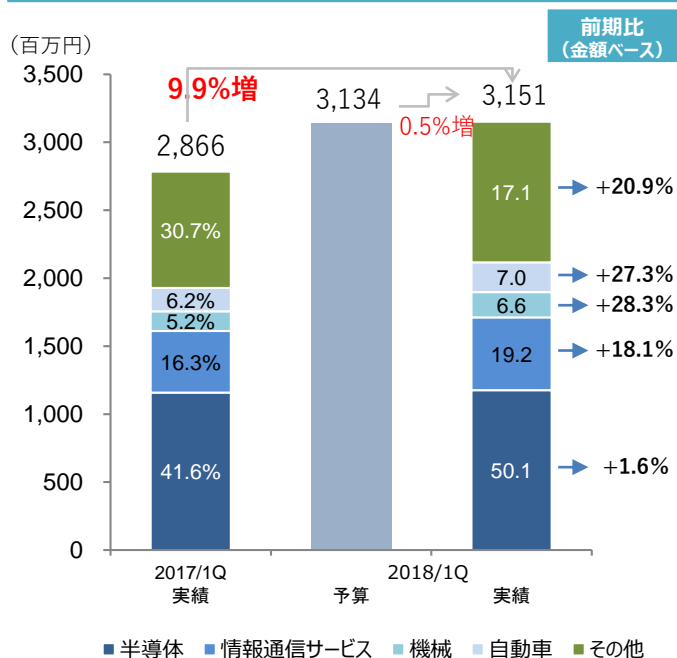
※在籍は3か月平均 他社受入の外部人員を含む  
※在籍数は現業社員のみ

# テクノ事業

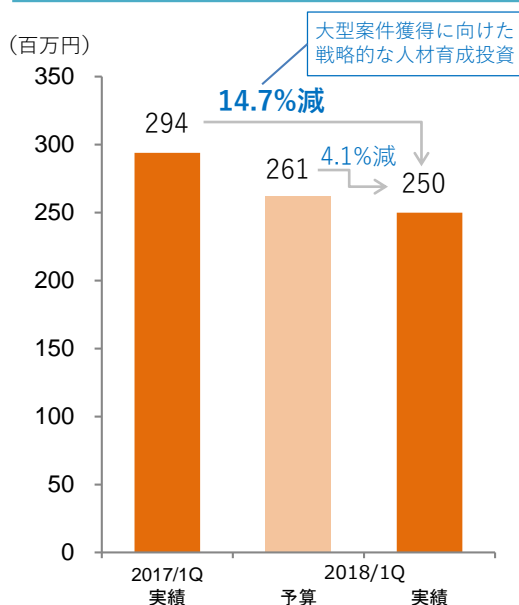
## < 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- ニーズの高い専門技術者（JAVAプログラミング・CATIA・Tfas等）の育成カリキュラム拡充への投資を継続、未経験者の育成輩出と共に既存社員の技術力向上、配属人数拡大
- 育成環境の充実に加え機動的な新卒採用組織や大学との強いパイプラインの構築により、100名を超える新卒採用も実現

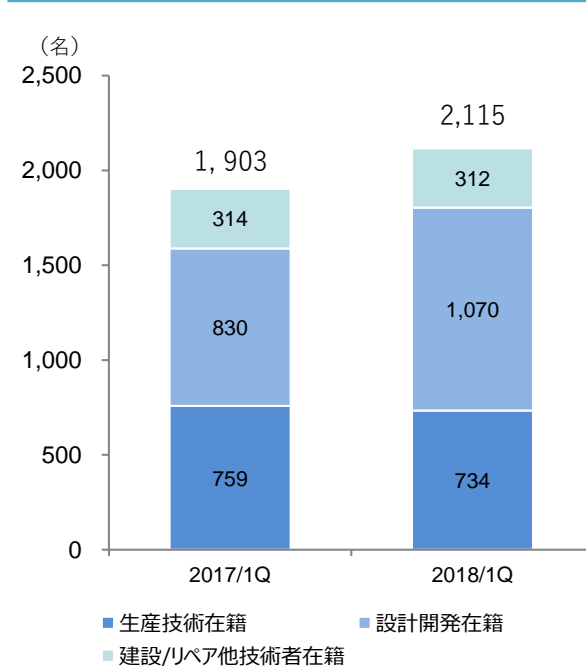
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※売上高の予算は分野別に開示していません

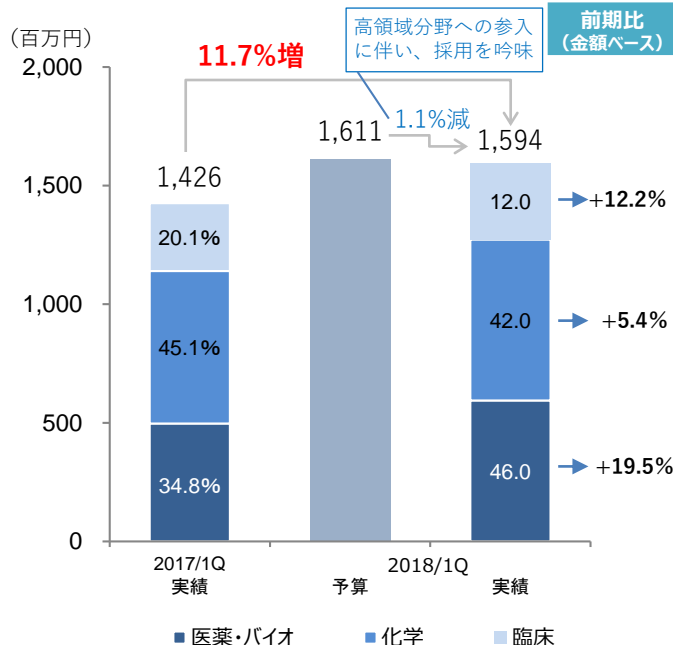
※在籍は3か月平均  
※在籍数は現業社員のみの数字

# R & D事業

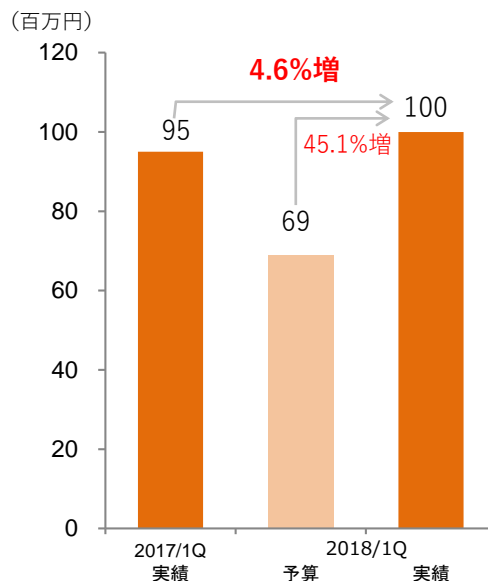
## < 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- 高付加価値領域への拡大を視野に採用・人材育成・提案等を進め、確実にチャージアップ
- 研究社員に加えて管理社員の育成環境充実を図り、企業ロイヤリティの高い人材の育成を通じて機能強化・定着率向上に繋げ、人材及びサービス共にクオリティを向上
- DOTワールド(株)では企業治験関連の受注が増加

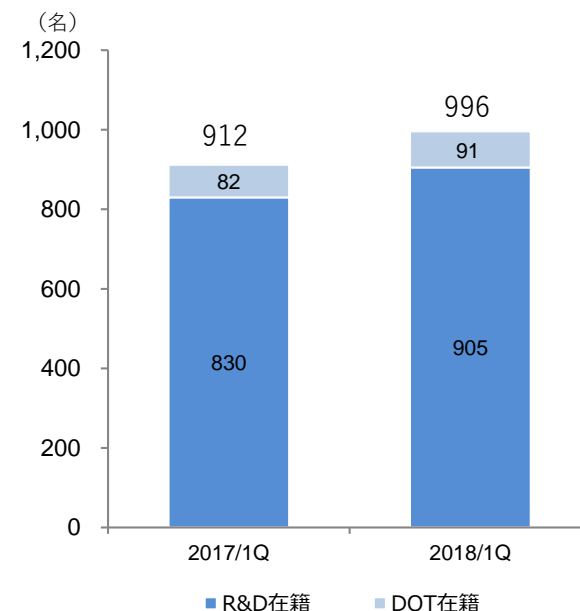
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※売上高の予算は分野別に開示していません

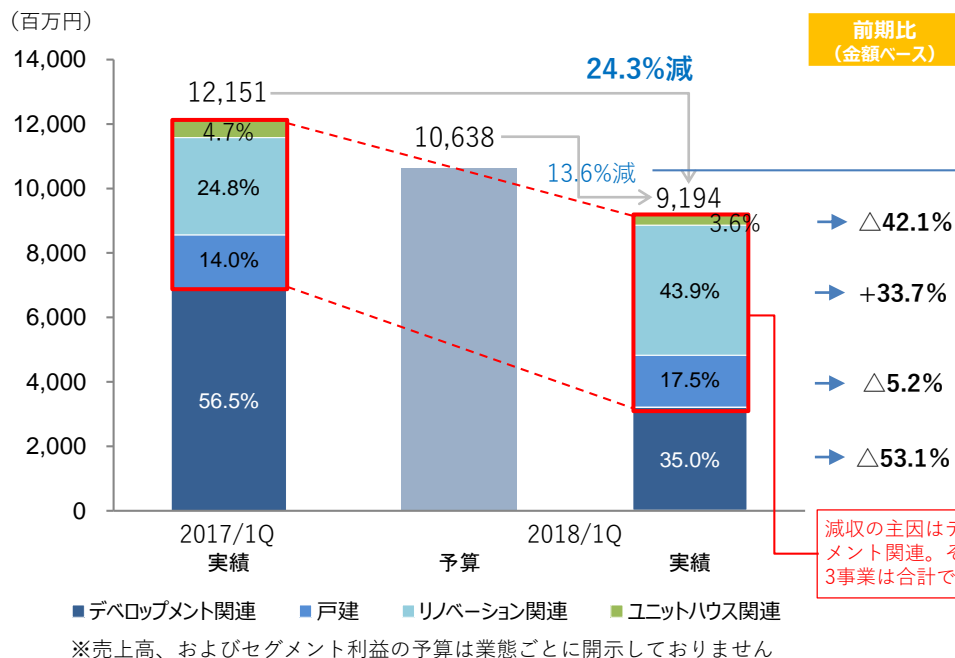
※在籍は3か月平均  
※在籍数は現業社員のみの数字

# 不動産事業

## < 業態別売上高・構成比と主な取り組み >

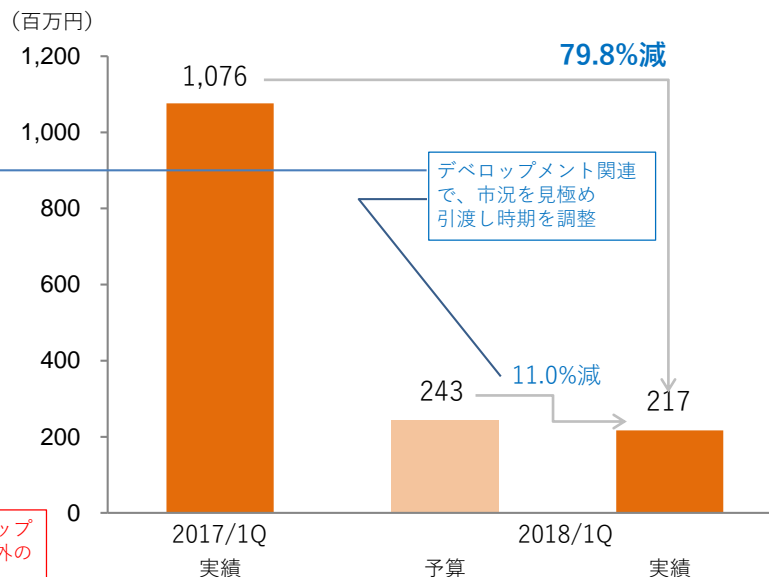
- デベロップメント関連は、市況を見極め事業用地の引渡しの一部を2Q以降に調整
- リノベーション関連は、繁忙期となる1~3月に前年同期の約1.5倍となる162戸を引渡し  
また、埼玉、奈良に拠点を開設し、着々とエリアを拡大
- 戸建住宅関連は、既存事業とのシナジーを活かし仙台エリアに支店を開設

◆ 業態別売上高と売上高構成比



※売上高、およびセグメント利益の予算は業態ごとに開示しておりません

◆ セグメント利益

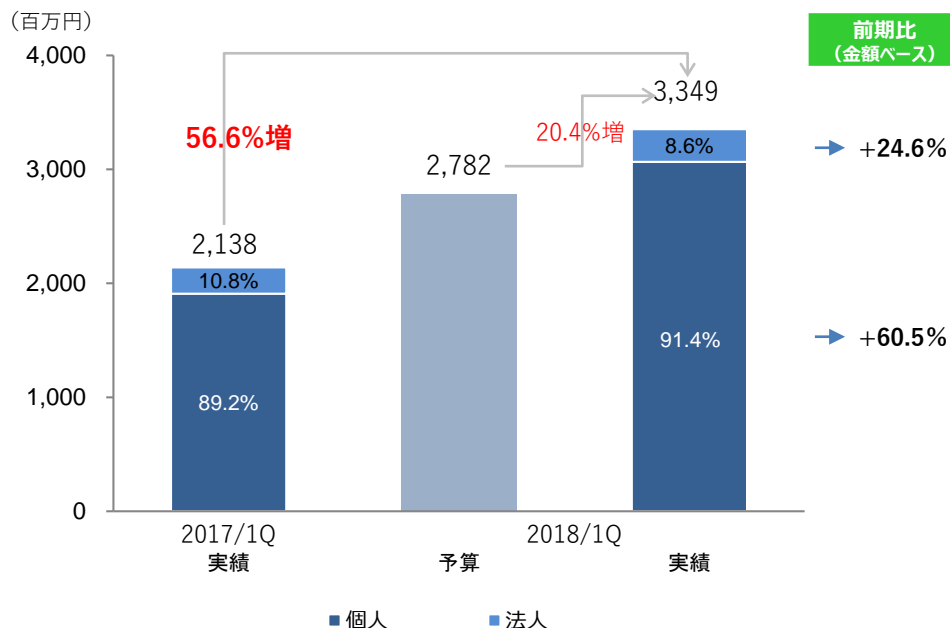


# 情報通信事業

## <売上高と主な取り組み>

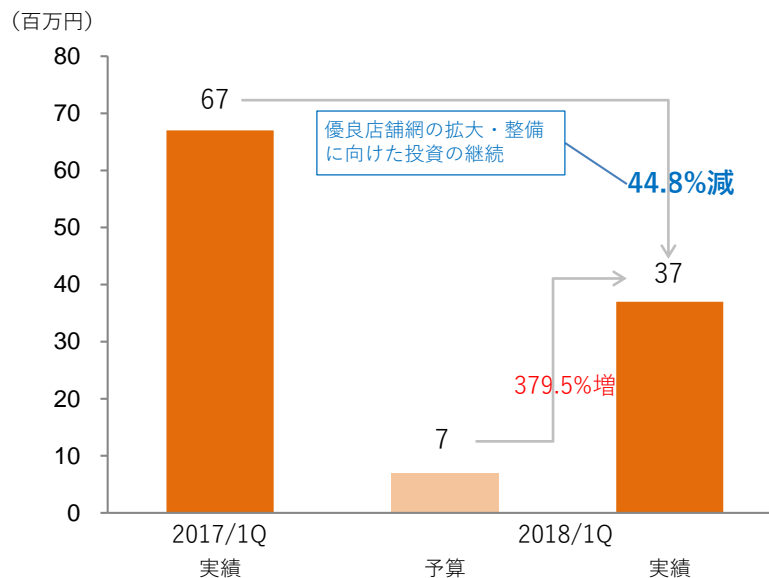
- これまで注力してきた優良店舗網の構築が奏功し、スマートフォン販売台数が業界平均を大幅に上回って伸長
- 昨年度増店した16店舗や人材育成、既存店舗の移転・大型化等の環境改善へ引き続き投資
- 法人向けサービスで新たにLED照明販売等の代理店事業を開始。数十社の代理店を開拓

### ◆ 仕向け別売上高



※売上高、およびセグメント利益の予算は仕向けごとに開示しておりません

### ◆ セグメント利益

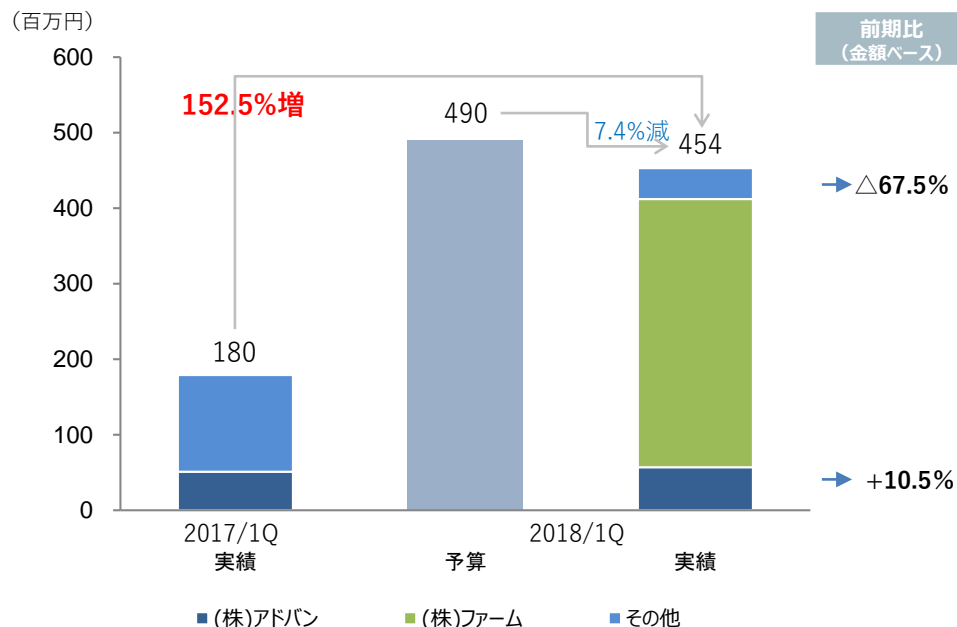


# その他事業

## <売上高と主な取り組み>

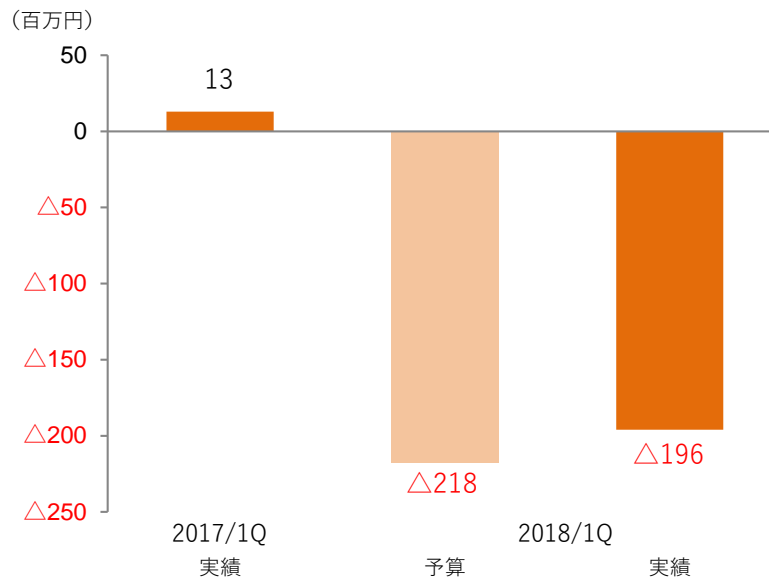
- (株)アドバンは、Web制作等が好調に推移すると共にグループ内の人材育成に大きく寄与
- 農業公園事業を行う(株)ファームは、春からの繁忙期における入園者数の増加を図り、リニューアルや新規企画の準備等を実施。また、農業公園の運営実績から、北九州市立総合農事センターの指定管理を受託、グループシナジーを発現

### ◆ 売上高の内訳



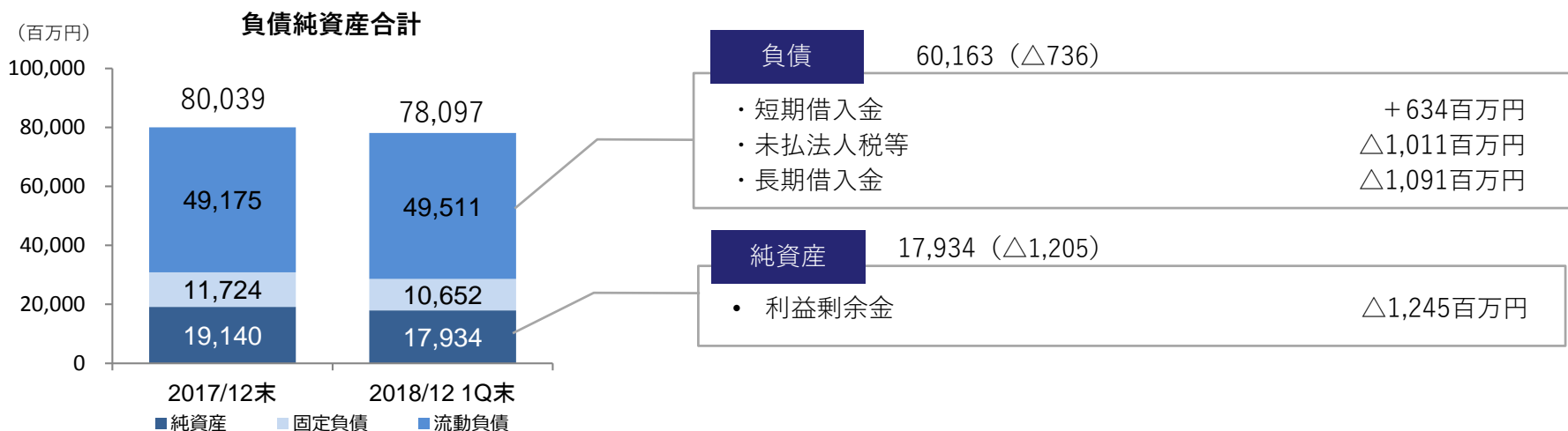
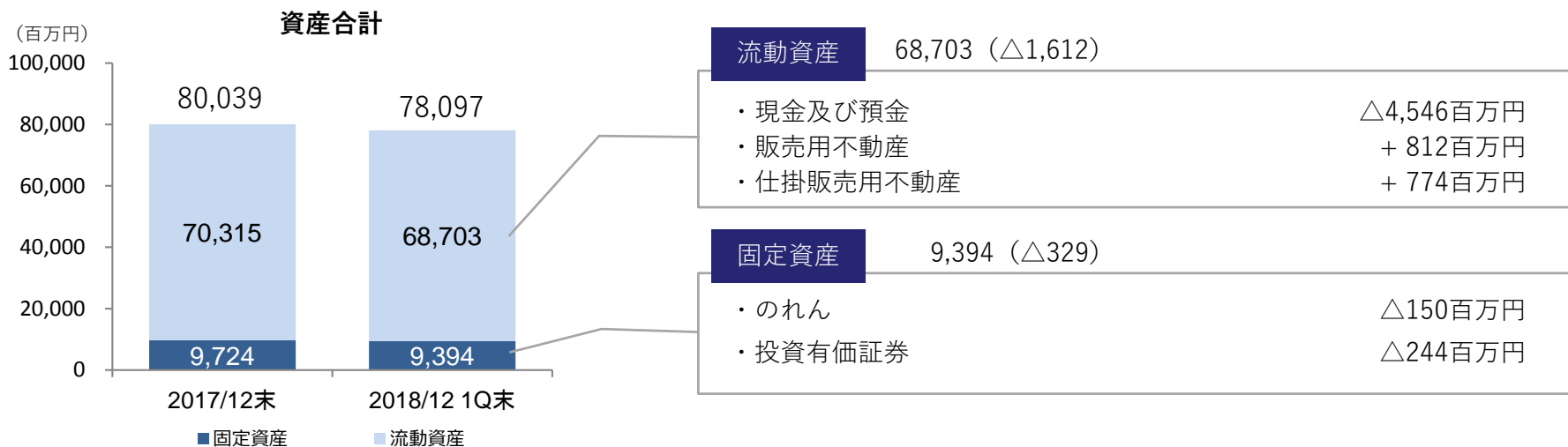
※ 2017/12 2Qより、(株)ファームを新規連結  
 ※売上高、およびセグメント利益の予算の内訳は開示していません

### ◆ セグメント利益



# 財政状態 B/S

● 借入金の返済、および配当、税金の支払いにより総資産は減少



## II. 2018年12月期 通期業績見通し





# 2018年12月期 通期業績見通し

- 新中期経営計画を着実に遂行し、9期連続の増収、および当期純利益で8期連続の増益を目指す

単位：百万円、%	2017/12 実績	2018/12 見通し	前期比	
			増減額	増減率
売上高	127,147	<b>145,137</b>	17,990	14.1
営業利益	7,064	<b>7,288</b>	224	3.2
経常利益	7,007	<b>7,083</b>	75	1.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,612	<b>4,635</b>	23	0.5
一株当たり利益（円）	275.35	<b>275.73</b>	0.38	0.1
一株当たり配当金（円）	82.7	<b>82.8</b>	0.1	0.1

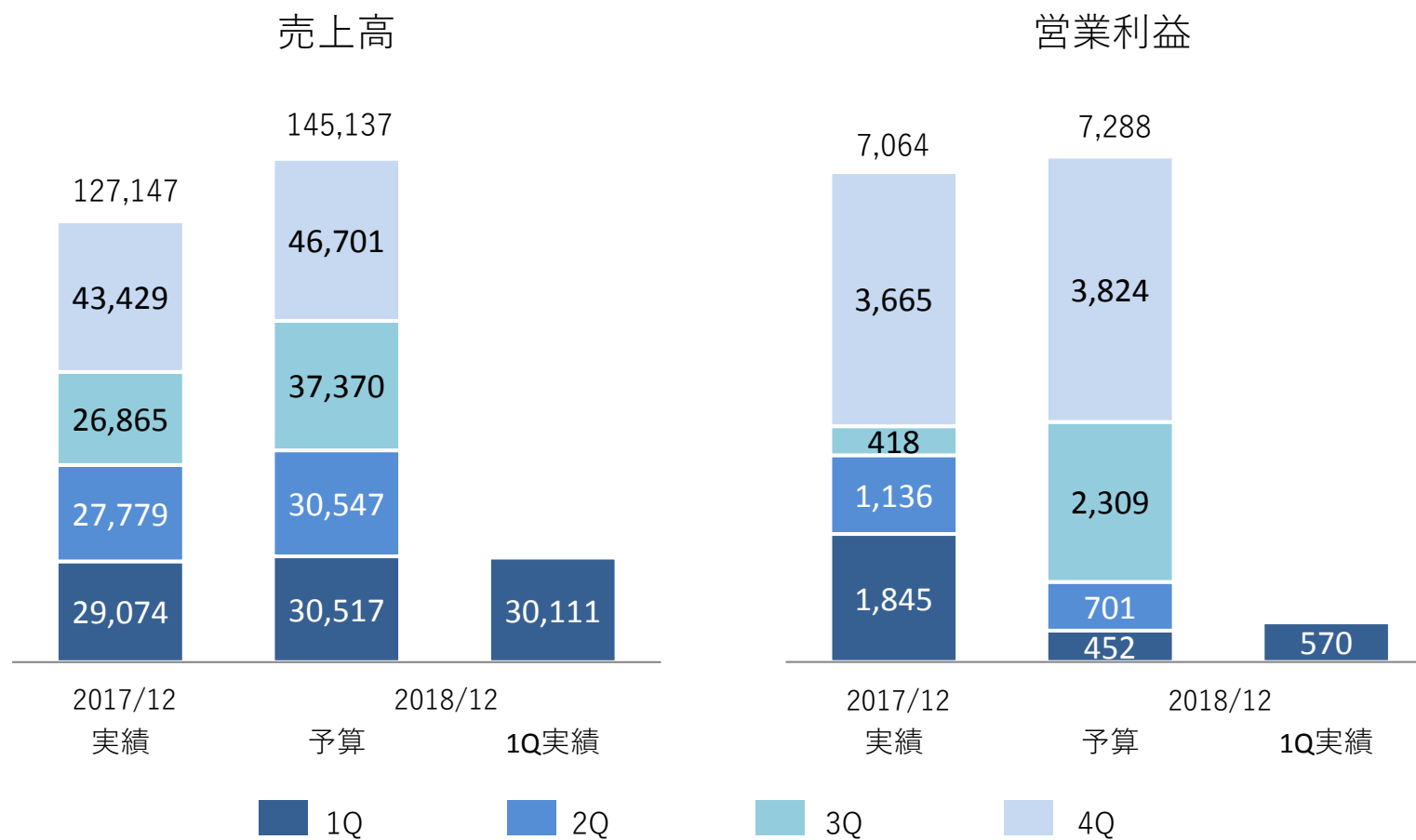
# セグメント別 通期業績見通し

- 基幹事業の人材・教育ビジネスによる牽引が続く見込み

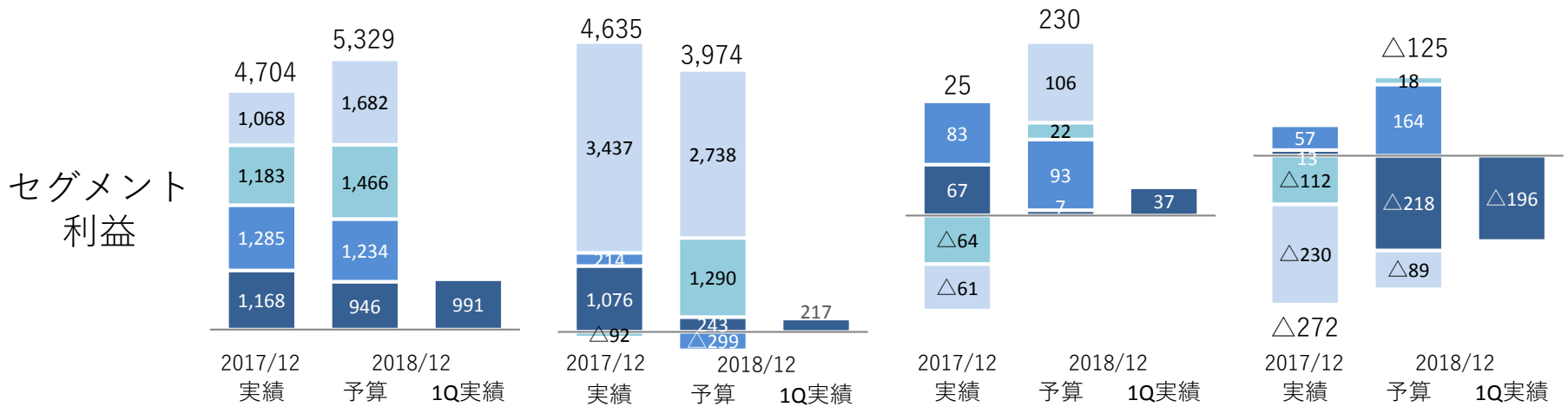
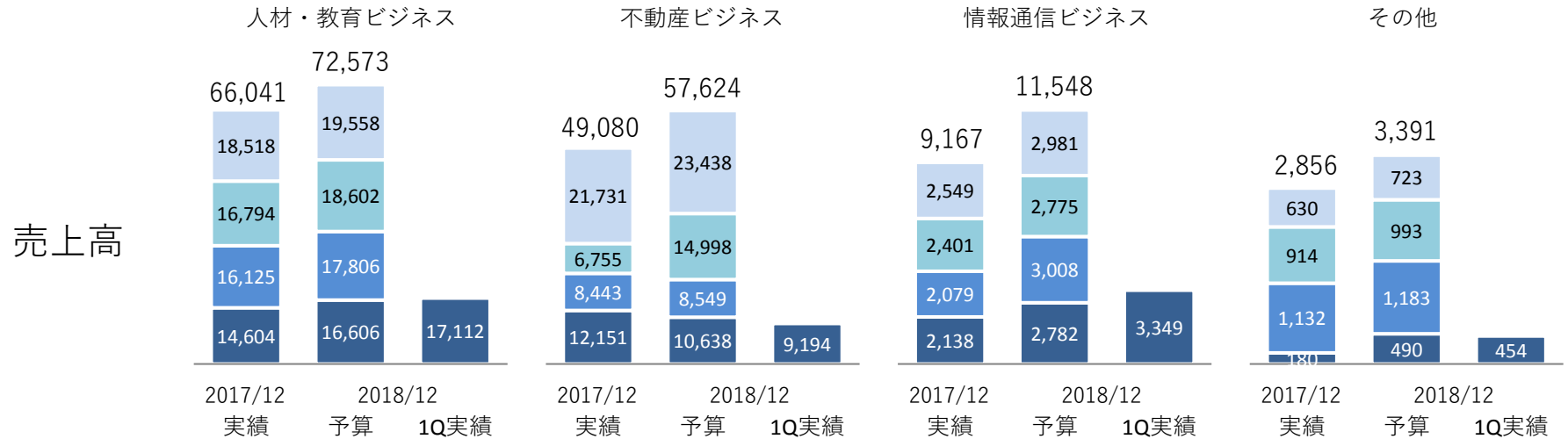
単位：百万円、%			2017/12 実績	(利益率)	2018/12 見通し	(利益率)	前期比	
							増減額	増減率
人材・教育ビジネス	ファクトリー事業	売上高	41,654		46,435		4,781	11.5
		セグメント利益	2,587	(6.2%)	3,264	(7.0%)	677	26.2
	テクノ事業	売上高	12,155		13,338		1,183	9.7
		セグメント利益	1,263	(10.4%)	1,291	(9.7%)	28	2.2
	R & D 事業	売上高	6,489		7,420		931	14.3
		セグメント利益	634	(9.8%)	693	(9.3%)	59	9.3
セールス&マーケティング事業	売上高	5,741		5,380		△361	△ 6.3	
	セグメント利益	219	(3.8%)	80	(1.5%)	△139	△63.5	
計(参考)		売上高	66,041		72,573		6,532	9.9
		セグメント利益	4,704	(7.1%)	5,329	(7.3%)	625	13.3
不動産ビジネス	不動産事業	売上高	49,080		57,624		8,544	17.4
		セグメント利益	4,635	(9.4%)	3,974	(6.9%)	△661	△14.3
情報通信ビジネス	情報通信事業	売上高	9,167		11,548		2,381	26.0
		セグメント利益	25	(0.3%)	230	(2.0%)	205	820.0
その他	その他	売上高	2,856		3,391		535	18.7
		セグメント利益	△272	(-9.5%)	△125	(-3.7%)	147	△54.0
合	計	売上高	127,147		145,137		17,990	14.1
		消去又は全社 営業利益	△2,029		△2,119		(一)	(一)
			7,064	(5.6%)	7,288	(5.0%)	224	3.2

# 2018年12月期 四半期別業績見通し

- 経営の透明性向上を図り、株主・投資家の投資判断に資するため、当期より四半期ベースの業績予想を開示



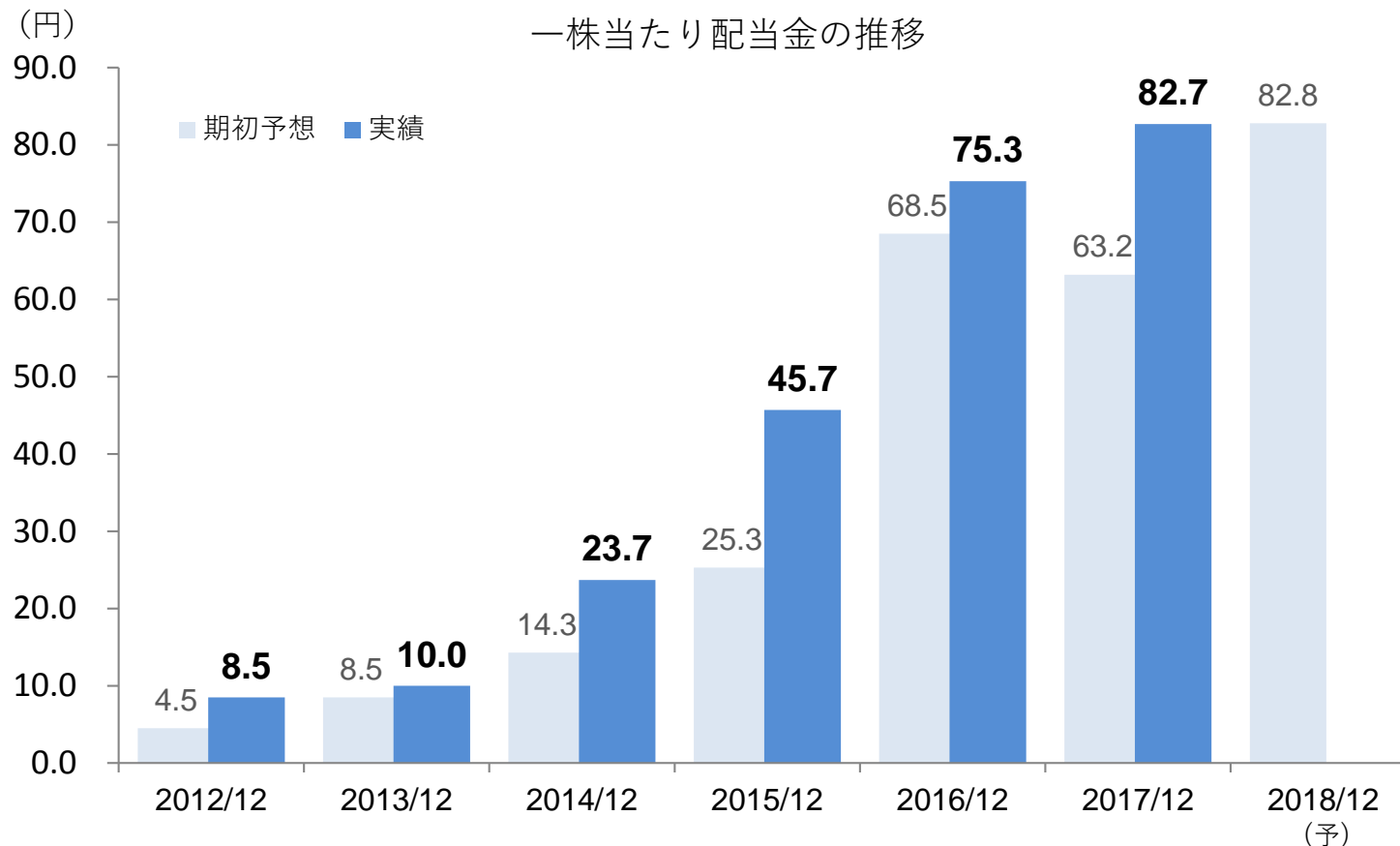
# セグメント別 四半期別業績見通し



■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

# 株主還元

配当性向30%を目安とし、安定的かつ継続的な配当成長を目指す



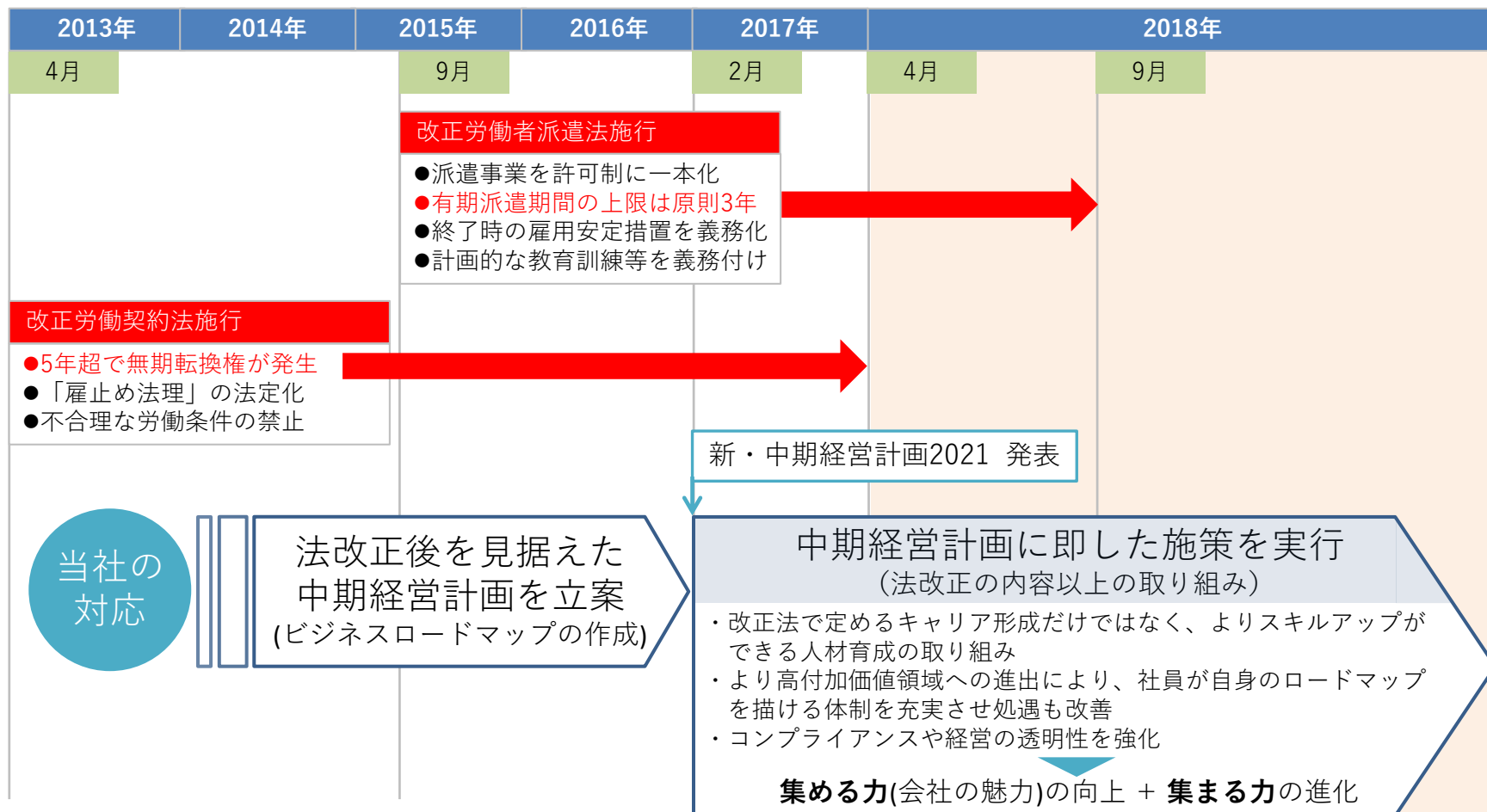
※業績予想及び配当予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### Ⅲ. 現状の課題およびトピックス



# 2018年問題について

## ～ 改正労働契約法、改正労働者派遣法の概要 ～



法改正を追い風に

# トピックス 1/2

2018年2月 人材・教育ビジネスにおける中核事業会社である(株)ワールドインテックが西肥情報サービス(株)を子会社化

狙い

**SIの強化（受託ができる体制の構築）を通じた人材ビジネスの成長**  
(株)ワールドインテックの動員力とソフト開発受託ノウハウの融合に注力



2018年4月 連結子会社で構成するワールドミクニ共同事業体が「北九州市立総合農事センター」における指定管理業務を開始

成果

**(株)ファームがグループインしたことによるシナジーの効果発現**  
労務管理・生産性向上ノウハウ×地域密着の不動産管理ノウハウ  
×農業公園の施設管理・運営ノウハウ = 質の高いサービス



2018年4月 連結子会社の(株)ミクニが福岡銀行が取り扱うリバースモーゲージ新商品に関する業務協定を締結

成果

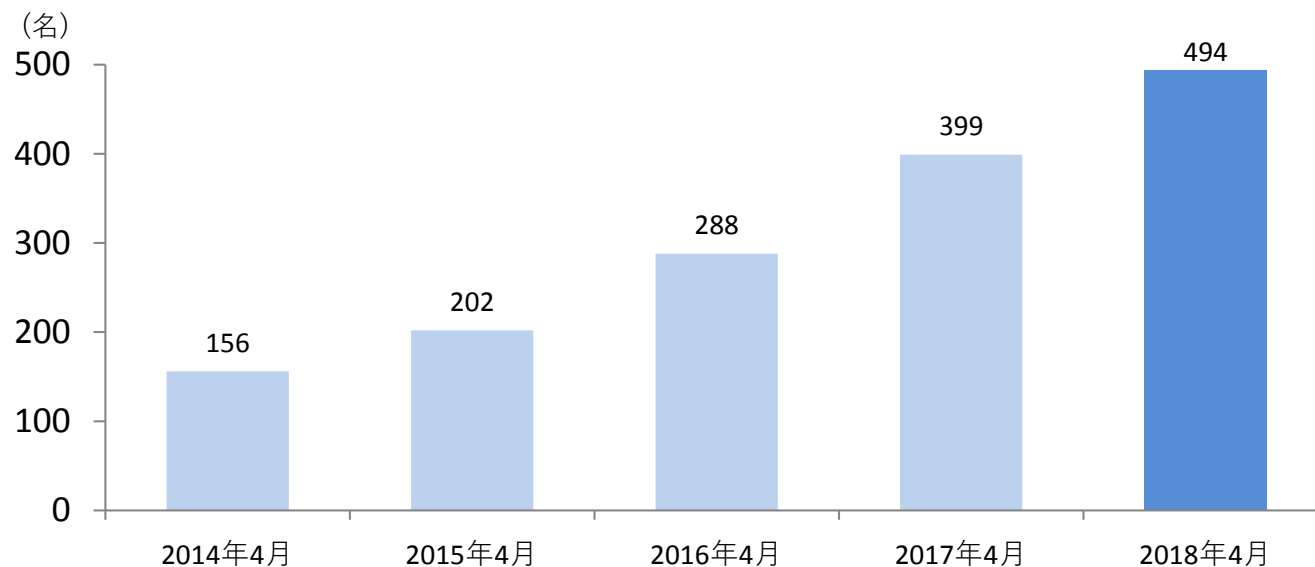
**(株)ミクニの地域に根付いた活動が地域有力行との強いパイプラインとして結実**  
不動産物件の査定業務を担うことで不動産事業を通じ、ご契約者のセカンドライフを応援





## 新卒494名が4月に入社

～500名規模の採用を実現できる体制・組織の構築を完了～



# 本資料に関するお問い合わせ

株式会社ワールドホールディングス

経営管理本部 広報IR室 西原 範朗

TEL 03-3433-6005

E-MAIL [irinfo@world-hd.co.jp](mailto:irinfo@world-hd.co.jp)

URL <http://www.world-hd.co.jp/>

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。